

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212P206	診療に伴う援助技術 (Nursing Skills for Medical Care)	専門教育科目 基礎看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	後	金 1・2	佐藤祐貴子、原田千鶴、清村紀子、野上龍太郎、安藤敬子 (福祉健康科学部) 他 内線: 5031 E-mail: haraguti@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】本科目は、看護に共通する基本技術を基盤とし、科学的根拠に基づき、看護技術の原則を踏まえた診療に伴う援助技術を学ぶ。生命維持に必要な人間の生物学的な構造機能を理解し、安全で確実な医療の提供が行われるように感染予防や症状管理、与薬、検査、創傷管理などの看護技術の修得を目指す。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 学習する看護技術の原則・根拠を説明できる。	○						
2. 原則に沿って目的および根拠をもった看護技術が実施できる。	○						
3. 安全で確実な診療に伴う援助技術について述べられる				○			
4. 看護技術の実施体験から、看護者としての自己の課題に気づき言語化できる							○

【授業の内容】*スケジュールの詳細は初回コースオリエンテーション時に配布・説明する。

回	内容	回	内容
0	コースオリエンテーション	9	症状・生体機能管理技術① (基本的知識)
1	感染防止の技術① (スタンダードプリコーション、手指衛生)	10	症状・生体機能管理技術② (静脈血採血)
2	感染防止の技術② (無菌操作)	11	症状・生体機能管理技術③ (実技チェック; 静脈血採血)
3	排泄援助技術① (持続的導尿)	12	与薬の技術① (基本的知識)
4	排泄援助技術② (グリセリン浣腸)	13	与薬の技術② (筋肉内注射法)
5	食事援助技術 (非経口的栄養摂取)	14	看護技術探求学修プレゼンテーション
6	創傷管理技術	15	
7	呼吸を整える技術① (酸素療法)		
8	呼吸を整える技術② (排痰ケア; 吸引、吸入)		

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A: 知識の定着・確認	○	事前学習、概念化シート、	・対象者/看護者役割の体験、グループワーク、グループ演習、ディスカッション
B: 意見の表現・交換	○	リフレクションシート、概念化シート、ディスカッション、レポート	
C: 応用志向	○	グループ演習、実技テスト	
D: 知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	テキスト該当範囲の熟読、テキスト内の動画の閲覧、事前学習課題への取り組み (毎回 1h : 計 15h)
事後学修	授業内容の復習、看護技術の反復練習 (毎回 1h : 計 15h)

【教科書】・・ 茂野 香おる 他: 基礎看護技術 I, 第 19 版, 医学書院, 2023

・ 任和子 他: 基礎看護技術 II, 第 18 版, 医学書院, 2021

・ 竹尾恵子 監修: 看護技術プラクティス第 4 版, 学研メディカル秀潤社, 2019.

【参考書】坪井良子他編: 考える基礎看護技術 I 第 3 版, ヌーヴェルヒロカワ, 2005.

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4
期末テスト	70%	○	○		
プレゼンテーション	20%	○	○	○	
学修成果物・レポート	10%	○		○	○

【注意事項】*授業前は、準備学修を必ず行ってくること。

・清潔に留意し、服装・髪型・爪を整えてユニフォームとナースシューズを着用し参加すること。

・防寒用のカーディガンは演習・実習で使用できる専用のものを準備しておくこと。(ジャンパー、コート等不可)

【備考】科目の連絡や課題の提示、資料配布は、毎回 Moodle を活用する。(各自で確認すること)

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の实務経験		看護師：佐藤祐貴子，原田千鶴，清村紀子，野上龍太郎，安藤敬子 他 保健師：安藤敬子
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした、教育内容		臨床での豊富な経験と、熟練の技術をもって「診療に伴う援助技術」について教授する。
授業形態		直接授業